



清水小学校PTA 総会 校長あいさつ

子どもたちを「本物の笑顔」に！

校長 井上 文典

はじめに

### 令和6年度 清水小は「本物の笑顔」をめざします

マスク越しの学びの4年間で過ぎ、学校では、昨年度から、ほぼ通常の教育活動ができるようになりました。しかし、数年間、本来であれば、経験できたはずの様々な表現活動が制限されてしまったことも事実であり、失ったものもあります。

令和6年度は、まず、本来の学校の姿、子どもたちがマスクを外して楽しく会話をし、歌を歌い、豊かな表情で子どもらしく表現する活動を大切にしながら、ポジティブな学校文化を再構築していくことを表明し、新年度をスタートいたします。

加速度的な時代の変化への対応が迫られる今、心が揺れ、不安になります。だからこそ、今、一番大切なことは揺るがない土台を構築することだと考えます。私たちは学校教育の目的を再度確認し、人格を形成していくために大切なことを日々の教育活動の中でシンプルに思考し、結果につながる実践をしていきます。そして、「本物の笑顔が輝く清水っ子」を育てていきます。

## 1 「どうせ無理」ではなく、小さなことでも「わかった」「できた」と喜ぶ子どもを育てます

### 子どもたちの心から「どうせ…」のつぶやきをなくしていきます

子どもたちの伸びを阻害する要因の一つは「どうせ…」というあきらめの習慣です。「どうせ…」とつぶやくことは、思考をそこで止めることです。一人一人の個性に応じた指導、支援とともに、適切な負荷に対しては粘り強く取り組ませ、達成感を味わわせていきます。「自分でできた」という喜びは自立心の大切な種です。そして、学力向上は自立のための大切な柱の一つです。子どもたちの「自分で考えた(思考)」「自分で決めた(判断力)」「自分でできた・わかった(知識・技能)」この感動を大切にしていきます。

## 2 「ありがとう」「ごめんなさい」が言える子どもを育てます

### 「感謝と謝罪」の心と言葉は、大切な生きる力です

学校では、日々の実践を通して豊かな言葉、豊かな時間をつくり出していけるようにしていきます。特に「ありがとう」を感じる感性をもち、言葉にできる子どもを育てます。また、指導を受けるような行動があったとしても、自身をしっかり振り返り、「ごめんなさい」と言える子を育てていきます。

「感謝と謝罪」の心と言葉は、信用と信頼につながっていきます。

## 3 「正しい習慣」は人生の宝物です。丁寧に、丁寧に身につけていきます

### 本年度は「はきものそろえ」から！

「ルール」「マナー」を身につけることは、学校生活や社会生活へ適応していくための土台です。まず「はきものそろえ」を徹底します。この「まず…」を徹底することを大切にします。チーム清水として徹底できたことを子どもたちと共に喜び合い、そして、子どもたちの心の居場所を、授業や学級の活動に広げていきます。

## 4 望ましい集団活動を通して「学級の力」を伸ばします

### 経験こそ最大の学び！学級における失敗、トラブルから学び、そして個と集団を育てます

#### (1)学級目標などの言葉を大切にします

学級目標は学級の行先表示板です。学級で一番大切な言葉であり、学級の物語のタイトルです。また、学級目標は、自己理解、他者理解、他者貢献など、子ども自身が自分の成長を確かめる物差しになり、担任が個や集団を認め、賞賛するための大切な軸になります。

常に学級目標を意識した学級経営に努め、子どもたちの心に残る一年をつくっていきます。

#### (2)失敗をおそれず、自分で決める(自己決定)ことができる学級の風土を大切にします

学力の要素に「判断力」があります。自分で判断し、自己決定する力を付けるために一番大切なことは、自らチャレンジし、判断や決定の間違いを経験することです。今、この経験が不足しています。

「間違っただけ、自分で決めることができた」という自己評価、他者評価を大切にしながら、優しく強い学級をつくっていきます。

#### (3)人間関係を形成する力を育てるために、自治的、自立的な集団活動を大切にします

自分の考えを主張する力と同じように、他者の考えを傾聴する力と他者と折り合う力はとても大切です。学級というコミュニティの中には、自分と異なる思いや考えがあることを理解させ、お互いが安心して意見交換ができるようにしていきます。また、その過程において失敗やトラブルがあることも想定し、問題解決のための話し合いもしっかり行うようにしていきます。

## 5 子どもの言葉、行動は身近な大人の「今」を映す鏡です

### 身近な大人の言葉、姿は大切な手本です

子どもたちは学習と同じように、生活の中で言葉を習得しています。身近に、美しい言葉、正しい言葉をつかう人がいればその影響を受けます。あいさつを自分からする人が身近にいれば自分からあいさつをする人になります。学校、家庭、地域の大人は、子どもたちにとっては手本であり、逆に子どもの姿は、身近な大人の言葉や姿を映す鏡です。

「子どもの前では〇〇」…これも大切なことだと思っています。

### 結びに

#### 学校、家庭、地域の環境、大人の姿、言葉は「薫習」

子どもたちは、学校や家庭、地域の風を感じて育ちます。通学路、校庭に可憐に咲き、頑張っている花を見て育ちます。あいさつをする大人に囲まれて、あいさつの「心」を知ります。はきものをそろえる人を見て、物事を整えることの大切さを知ります。学校、家庭、地域の教育文化はとても大切です。そして、これからも、それが子どもたちを包む風となり「薫習」となっていきます。新年度、保護者の皆様とともに新しい帆をはり、新しい風を受け出航できることを嬉しく思います。

令和6年度 よろしく願いいたします。